

■1万517人の参加、6052件記録が集まった 自然しらべ2011「チョウの分布 今・昔」

チョウは気候変動や地域の自然環境の状態を知る手掛かりとなる指標生物です。自然しらべ2011はチョウをテーマに、全国すべての都道府県で、のべ1万517人の方々が参加され、6052件の記録が集まりました。記録からはヒートアイランドや温暖化の影響、外来種の分布拡大などが見えてきました。またチョウを観察する楽しさや、チョウの探し方のコツを広く知ってもらおう「あなたもチョウ博士！研修会」を神奈川、群馬、東京、千葉で開催しました。



2012 活動レポート

2011年度の主な成果

あなたのご寄付やご支援で
2011年度、NACS-Jは全国で
このような自然保護活動ができました！

■市民参加の地域戦略づくりのガイドブック発行、セミナー・シンポジウムを開催 生物多様性の道プロジェクト

生物多様性を活かした地域づくりを展開するため、各地でつくられ始めた生物多様性地域戦略に着目。NACS-J役職員と専門家からなるアドバイザー会議で、生物多様性を活かした地域づくりの観点から、次期生物多様性国家戦略に盛り込むべき事項や生物多様性地域戦略の優良事例・活用方法などを検討しました。



その成果をもとに生物多様性地域戦略の策定に、より多くの市民参加を進めることをポイントにした『ココからはじめる生物多様性地域戦略—市民と育てる、暮らしと自然の未来像』を製作発行しました。丸の内さえずり館（東京・有楽町）、各地でセミナーや展示、ふれあい調査講習会などを開催し、生物多様性を活かした地域づくりの第一歩を踏み出しました。2012年2月4日には「シンポジウム・みんなでつくる生物多様性地域戦略」を東京・浜松町で開催し、全国から160名近い参加がありました。



■市民参加型の森林生態系管理モデルを確立 AKAYAプロジェクト

林野庁との国有林管理の共同作業が続いています。プロジェクト8年間の成果と課題を取りまとめ、今後5～10年間を見据えた自然環境モニタリング方針を見直しました。また、市民参加型の国有林管理手法として、サポーターとの定期的な活動「赤谷の日」を継続するとともに、新設した自然林復元試験地で、市民参加型の植生モニタリング調査を実施。地元みなかみ町の町長や議員の視察を設定し、生物多様性地域戦略づくり、獣害対策など、新たな取り組みを進めています。

■市民モニタリングの普及や韓国NGOとの交流 市民調査活動の促進

韓国の自然保護NGO「グリーンコリア」と両生類の市民モニタリング調査の交流事業のため韓国を訪れ、課題を共有しました。2012年3月には日本で日韓両生類市民モニタリングシンポジウムを開催し、両国の市民モニタリングの状況や現場の課題を多くの市民団体と共有しました。また、モニ1000里地調査のコアサイトの福井県中地見湿地で、市民調査結果を使い行政による湿地内の水路や管理用道路の修復工事の計画を変更し、行政・市民団体・地域住民・NGO・工事会社と協力の協議の場をつくりました。2010年の市民調査全国大会の成果報告書を発行し、市民調査活動の普及を促進しました。



■全国で541人が新たに誕生 NACS-J自然観察指導員

指導員連絡会をはじめとした市民団体、自治体、企業と共催・協力して、講習会を全国で11回開催しました。新たに541名の指導員が誕生し、登録者は2万6000人を超えました。また、研修会「こどもと自然観察」や保全行動計画づくりのワークショップを開催しました。全国一斉自然かんさつ会では、自然しらべと連動し、「チョウ」をテーマにした全国各地での観察会開催情報を集め、ウェブサイトや新聞紙上でPRを展開しました。



■21件の国内外の研究・活動に助成 プロ・ナトゥーラ・ファンド

（財）自然保護助成基金との共同事業で、第22期は21件の国内外の研究・活動グループと個人に計1820万円を助成しました。また第20期助成の成果報告書を作成し、12月に第21期助成の成果発表会を開催（東京・表参道）しました。

■ふれあい調査結果や重要保全地域を蓄積 SISPA（戦略的保全地域情報システム）

国際照葉樹林サミットや宮崎県綾町のユネスコエコパークの申請にあわせ、照葉樹林に関する解析を進めました。また、日本の海洋保護区の現状を解析し沿岸保全管理検討会で発表。日本国内すべての風力発電施設をまとめ、WEBサイトで公開しました。また植物群落RDBの地理情報システム（GIS）データが、風力発電施設の計画にかかわる環境基礎情報の重要な自然地域として採用され、発電施設を建設すべきではないエリアとして考慮されました。



■市民観察の正確な位置情報を収集 生きもの情報館

1年間で約5300件の記録が集まり、自然しらべ2011での投稿情報を蓄積しました。その結果、市民の観察調査でも正確な位置情報と種のデータを収集できることが分かり、その有用性のアピールに大きく貢献しました。また、大分大学の授業では「Web-GISを活用した環境教育の実践」として試験的に授業に利用され、教育現場でも活用されました。



■母島・南島の世界遺産地域の保全提案 小笠原プロジェクト

2010年から独自調査で作成したジオエコタイプ（GET）区分図を基に、森林生態系保護地域の再生事業の優先度や対策に必要な事業を、環境省・林野庁に提案しました。また南島モニタリング調査では、世界遺産登録前後の利用による影響を検証。モニタリング調査の今後やクマノミ排除後の監視・対策の必要性を検討しました。南島利用のルールについては、島内で意見交換をしました。





■データ件数は67万件を突破! 全国の調査サイトから里やまの生物多様性を把握 モニタリングサイト1000里地調査

全国193カ所の調査サイトで1300名以上の市民とモニタリング調査を続け、約67万件のデータから里やまの生物多様性について全国的なパターンをつかむことができました。また2回目となる「サイト交流会」や調査講習会を開催し、調査員の交流や調査の普及のためのイベントを実施。またニュースレターの発行、各サイトでの地元調査報告会の支援、調査手法の普及のための概要版調査マニュアルの整備など、調査活動の支援や情報共有を進めました。

■自宅からできる自然保護アクション 伝えよう日本の自然～東北応援シリーズ～

自宅からできる自然保護のコンセプトで、会報に塗り絵ハガキと風景の解説を展開。東北の風景に自然への想いを込め、会員から知人の方へ支援協力のハガキを送っていただきました。原画と塗り方レッスンは、河出書房新社「大人の塗り絵」シリーズより提供されました。さえずり館で自然解説とセットのセミナーも開催。

■日本の沿岸を取り巻く問題に立ち向かう 沿岸保全管理検討会

8月に沿岸保全管理検討会を立ち上げ、国の総合海洋政策本部が5月に発表した海洋保護区に対する提言書の取りまとめに着手しました(2012年5月公表)。中海・隠岐、沖縄への視察、沖縄県の嘉陽海岸砂浜調査・海洋保護区に関するセミナー・自主ルールに関するセミナーを沖縄で実施し、大浦湾のサンゴ群集を持続可能に利用していくための地域づくりの一環として自主ルールづくりを働きかけました。



■海草藻場やサンゴの消失を指摘、事業の中止をアピール 泡瀬干潟の保護活動

埋め立て工事再開(10月)前に海草藻場とサンゴ群集の調査を行い、工事再開直前に記者会見を東京で開き、調査結果や同海域をめぐる問題を広くアピールしました。サンゴ群集については工事再開後のデータも取り、埋め立て工事による影響を数値でとらえました。(写真:有光智彦)



■これからの保全・利用・管理のあり方を提案 国立公園・国有林の保全管理方策の策定

重要地域の抽出と、既存指定区域との重複状況を分析しつつ、新規の国立公園の指定や拡張対象の候補地を選定する作業が環境省で進められている一方、国の地方出先機関の広域(行環)連合への委譲・移管が検討されていて、国立公園行政を含む環境省の地方環境事務所も移管すべきかどうか問われています。NACS-Jは「生物多様性の屋台骨」である国立公園や保護地域は、国、地方自治体、民間団体、市民との協働管理の枠組みを充実させて、国も地方も相応の責任をもった保全管理を行うことを求めました。また、改正のために委員会で見解を述べてきた森林法も4月に改正され、健全な森林生態系保全など「公益重視のより一層の推進」という位置付けがなされました。



■にじゅうまるプロジェクトで日本の市民活動を盛り上げる 生物多様性条約・愛知ターゲット達成への貢献

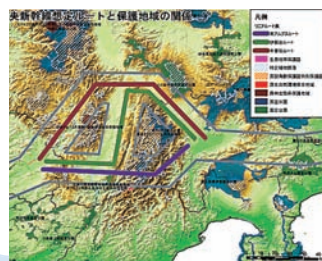


IUCN-Jの事務局を運営し、生物多様性条約COP10で決議された愛知ターゲットの達成に向けた取り組みを「見える化」し、盛り上げていく「にじゅうまるプロジェクト」をスタート。IUCN第5回アジア地域自然保護フォーラムや、COP11の準備会合などに参加し、生物多様性条約COP10後の愛知ターゲットの実施状況について情報収集、発信するとともに、サイドイベントやポスター展示などを通じ日本の市民団体の活動を紹介しました。



■保護すべき地域で安易な開発はしてはならない 保護地域の発電所開発・リニア中央新幹線計画への提言

火力や原子力発電のような大規模発電から、生物多様性と両立する安全で安心な再生可能エネルギーへの転換は急務です。しかし再生可能エネルギーでも、人による制御が不確かだったり、希少な自然環境への負荷が大きい大規模な風力発電や地熱発電の開発を安易に認めると、地域の自然性を失います。また、日本列島の地形地質の成り立ちを考えれば、南アルプスを貫通するリニア中央新幹線の長大なトンネル計画は、大深度地下の開発として非常にリスクの高いものです。こうしたことに対し、環境省や国交省の検討会に、科学的根拠に基づく透明性のある合意形成の場づくりを求めてきました。



■国際照葉樹林サミットとユネスコエコパーク登録で保全を加速 綾の照葉樹林プロジェクト

照葉樹林の価値を再認識し、持続可能な利用を将来にわたって推進するため、宮崎県綾町で「国際照葉樹林サミットin綾」を開催しました。国内外から専門家、市民団体、行政関係者などを招き意見交換を行い、国際照葉樹林サミット大会宣言を採択。また、間伐前の林床植生を把握するため、市民参加で調査を実施したほか、5年前に調査したエリアで再調査を行いました。綾町のユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の申請に協力し、9月に正式に推薦が決定しました。



■独自調査と分析で矛盾だらけのアセスメントの問題指摘 辺野古・大浦湾海域の保護活動

普天間飛行場の移設先として計画が再燃し続ける辺野古・大浦湾海域。事業者である国が環境影響評価書類を沖縄県に夜中に持ち込む異常なアセスに対し、抗議声明を発表。評価書の公開に向けて、専門家とともに「辺野古・大浦湾検討会議」を組織し、評価書への意見書を沖縄県に提出しました。



NACS-J決算レポート

(2011年4月1日～2012年3月31日)

昨年度もNACS-Jの活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。以下に概要を報告します。

■ 収益（収入）

2011年度の決算は右の表の通りです。収益は、前年度に比べ助成金が増えたものの、全体で3000万円の減少となりました。特に寄付金が著しく減少しています。節約をするなどして費用を抑え、当初予算での赤字幅を減少させた決算となりました。

基本財産などの運用益は、相変わらずの低金利状況のもと、リスクのない範囲でできる限りの運用を図っています。

会費収入は、独自の活動を安定的に進めるための非常に重要なものと位置づけています。しかし個人会員については高齢化による退会、また団体・賛助会員については経済情勢の悪化や、地方自治体における負担金見直しの動きにより、減少傾向が続いています。

今年度の寄付金減少については、東日本大震災への支援に社会的な関心が集中したことが、大きく影響したのではないかと考えられます。2012年度は自然保護問題への関心を高め、支援しがいのある事業を増やすことにより、会員や寄付者の拡大に一層努める方針です。

■ 費用（支出）

公益法人の決算における費用は通常、通信運搬費や会議費といった科目でまとめられています。ここでは活動の内容を分かりやすくするため、事業目的ごとの額でまとめ直しました。

NACS-Jでは収益をできる限り自然保護のため有効に使うことを目指しています。2011年度は、費用の94.2%を事業費として、5.8%を法人運営のための管理費として支出しました。

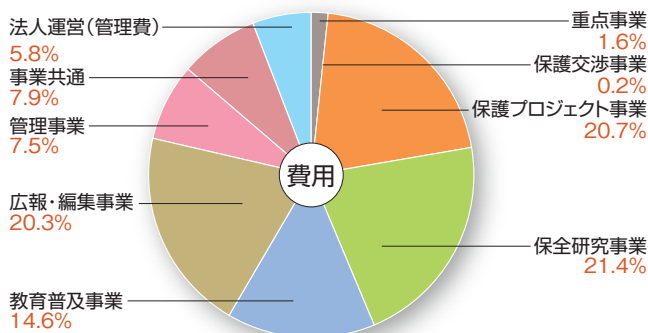
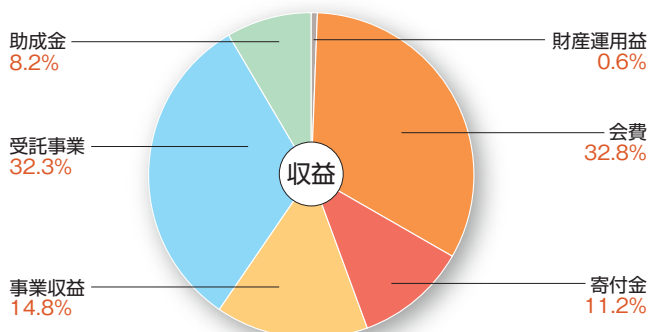
各事業における主な支出は、保護プロジェクト事業ではAKAYAプロジェクト、小笠原プロジェクト、辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動。保全研究事業ではモニタリングサイト1000里地調査と綾プロジェクト、SISPA。教育普及事業では自然観察指導員養成と自然しらべ。広報編集事業は会報「自然保護」の制作・発送費と広報活動でした。

受託事業からの収益の使途は保護プロジェクト事業と保全研究事業の支出に含まれています。AKAYAプロジェクトや小笠原プロジェクト、モニタリングサイト1000里地調査など、NACS-Jで主体的に取り組む事業に関連した必要な事業を受託するようにしています。

管理事業は沼田賞開催や基盤整備、事業共通は事業全体にかかる費用を計上しています。

2011年度決算・事業報告、2012年度予算・事業計画の詳細は、NACS-Jウェブサイトに掲載されています。どうぞご覧ください。

2011年度の決算



科 目	2010 年度決算	2011 年度決算	2012 年度予算
収益合計	¥265,279,220	¥234,790,665	266,970,000
財産運用益	¥1,662,701	¥1,385,033	1,350,000
会費	¥83,061,933	¥77,030,010	80,590,000
寄付金	¥44,927,062	¥26,321,260	29,110,000
事業収益	¥40,735,539	¥34,766,098	43,320,000
受託事業	¥85,800,918	¥75,735,661	88,030,000
助成金	¥8,474,000	¥19,160,040	24,530,000
雑収益	¥617,067	¥392,563	40,000
費用合計	¥290,637,981	¥273,587,225	¥292,343,880
重点事業		¥4,329,259	¥4,500,000
保護交渉事業		¥444,063	¥500,000
保護プロジェクト事業	¥61,774,192	¥56,574,154	¥61,660,000
保全研究事業	¥73,430,470	¥58,453,522	¥67,960,000
教育普及事業	¥36,855,527	¥40,079,847	¥48,083,000
広報編集事業	¥57,728,178	¥55,583,544	¥45,649,000
事務局運営事業	¥25,659,072	¥20,463,105	¥23,755,000
事業共通	¥20,165,897	¥21,693,952	¥23,321,000
法人運営（管理費）	¥15,024,645	¥15,965,779	¥16,915,880

*公益法人会計準則に合わせ、正味財産増減計算書による決算としています。

ご寄付ありがとうございました。

2011年度寄付サポーター

603人

総額2632万1260円

あいおいニッセイ同和損害保険(株) 青木登志夫・青山巖 赤沢美恵子・赤羽ユリ・赤間泰子・秋田あや子・浅子かおる・浅田くに・浅野政栄・阿佐美良雄・アジレント・テクノロジ(株)・アジレント・テクノロジ(株)社員有志(株)アップルファーム・アフラック日本社員厚生会・甘粕睦子・アメリカンファミリー生命保険会社・新井康介・新井苑子・新井正樹・荒木恭仁子・飯塚紘一・飯塚友康・五十嵐敏文・池田久浩・石井由和・石田清明・磯村泰正・伊東要・伊藤喜久代・伊藤喜世子・伊藤久美子・伊藤総平・伊東陽子・伊藤真樹子・伊東幸雄・伊藤由貴子・今井勝義・今井邦浩・入倉進・岩井満知子・岩田幸雄・岩間香宝・印藤孝・植田勢以子・上田夕希子・植原彰・上原勇一郎・上原幸也・上東ま

ど香・植村春人・浮島仁子・後木建一・宇野由香里・梅崎博敬(株)エスアイ(株)NTTデータ・榎田基明・エプソン販売(株)・狼森・大内紘三・大久保多加男・大久保多世子・大河内典子・大越健嗣・大坂知子・大坂幸枝・太田慶子・大槻博明・大中睦夫・大橋裕郎・大牟田一美・岡岡陽子・岡田優子・岡本初生・小川明子・小川言恵・小川治作・小河原佐織・荻原猛・奥出雲病院・奥野征代・尾崎尚子・小山内司・小田邦矩・小高俊彦・鬼塚隆子・小野知洋・加川晶子・角井澄世・葛西幸枝・榎川弘子・片野和子・勝野順・勝山靖子・加藤晃樹・加藤俊哉・加藤元行・加藤幸子・金津治恵・金山陽子・鐘ヶ江隆義・金久由美子・神岡勝美・上田志朗・神谷明彦・神谷省司・唐沢良子・荻谷雅充・カローラ(株)・河合明宣・川勝史朗・川島勉・川嶋正勝・川南仁・神崎圭子・神林敦子・喜入ヒロミ・木内聖子・菊地眞幸・岸野博史・北岡由美子・北原千春・北村俊司・木下武司・木原正男・木原泰文・木村直代・木村忠清・キュービー(株)・清野婦美子・COOP・草野恭子・楠見潔・工藤勝政・国木田之彦・國武洋子・久保隆枝・久保田恵子・熊切保・熊代昌三・組頭五十夫・栗林淳子・グループ21(株)・KCD・幸田辰雄・光田道雄・河野純子・国画会・児島英人・小島弘之・小島三代子・小関孝一・後藤清美・後藤賢一郎・後藤文男・小林喜美男・小林玉江・駒井邦彦(株)・コモテック・古本峯

夫・近藤篤文・近藤美弥子・近藤康正・齋木由紀子・西條紀子・西條恭子・齋藤けさよ・齋藤幹夫・西連寺節子・酒井道子・堺沢清光・榎久美子・相楽悦男・佐久間憲生・笹輝美・笹子重治・笹沼智子・佐々勝巳・佐藤友子・佐藤恭子・佐藤健一・佐藤充郷・佐藤文夫・佐藤正美・佐藤資子(株)・サニクリーン・猿田孝一・澤井勝・塩田正子・塩出光代・塩原ゆかり・鹿間信弘(株)・資生堂・資生堂花椿基金・資生堂健康保険組合・自然観察指導員・沖繩地区連絡会・柴山裕子・島田直明・島田裕史・清水精子・清水隆尚・清水雅典・清水実・志村弘子・下田和広・ジャスト・ギビング・ジャパン・庄司博之・昭和シエル石油(株)・新海宏枝・新城美紀・新宅英夫・末吉典子・須賀等・菅井良幸・菅谷勝芳・杉浦幸子・杉江千月・杉本玄海・杉森広海・杉山一雄・杉山弘信(株)・スクロール・鈴木明美・鈴木絹子・鈴木茂男・鈴木龍弘・鈴木忠司・鈴木美紀子・鈴木保雄・角谷滋・豆本圭基・清田保之・Secretary of the Convention on Biological Diversity(株)・千趣会・仙洞田縫子・仙波一平・相馬健次・曾我日出夫・曾我基行・大和ハウス工業(株)・田植豊美・高木伸季・高野裕之・高橋英・高橋登美子・高橋康文・高橋洋一・高畑知子・田上真一郎・滝石有紀・瀧島眞理子・田久保晴孝・竹内達生・武田和子・竹田喜美子・竹村真美・田島清利・田島由香里・田代英治・忠地賢・立岡英宏・田中重樹・田中玉枝・

田中ふゆの・田邊美紗代・谷村直明・玉尾恭一・田村耕作・千々岩哲・暹玲令二・茅野恒秀・チャリティ・プラットフォーム・中外製薬労働組合ほかつと基金・塚田良夫・塚原睦子・津久井誠・辻博之・土田隆恒・土屋俊幸・簡井和光・(株)TAT・照屋久子・土井敏彦・刀光た・時田眞子・土沼義夫・戸村伸・都谷森五郎・虎谷健・鳥居進・鳥山由子・内藤よし胡・中井節子・長池卓男・中川キヨ子・中川昌昭・中島忠臣・仲田由雄・中西正・中野葉子・中部喜和・中村恵美子・中村純子・中村忠士・中村文彦・中村裕美・中村良二・中山賀央・名古屋短期大学現代教養学科阿部ゼミ一同・並木孝之・奈良讓・成久武(株)・ニコン・西浩孝・西尾けい子・西村照雄・二瓶栄子・日本オープンウェーブシステム(株)・株ネオナチュラル・能田昭子・野川和三(株)・ノスメディア・野村智範・橋幸子・橋本清・長谷川松治・長谷川博・畑敷・パタゴニア日本支社・八田慶子・羽鳥勇・花岡美佐緒・浜田昭文・浜田伸剛・濱邊健三・林幸代・林信夫・林博・原香澄・原島和子・原田廣正・ヒーツアンドアソシエイツ(株)・久光幸子・日比豊・日比野祐久・平尾秀夫・平田克紀・平野公子・平山政昭・ファミリィネット・ジャパン(株)・フオリス・福岡順子・福岡真人・福田雅治・福西貴子・福村しづ江・福興英明・福来富子・富士ゼロックス(株)・富士ゼロックス株式会社倶楽部・藤田和子・藤田重輝・藤田元義・藤原ユキエ・

藤原正・布施則雄・船戸三枝子・古澤賢彦・古田桂子・古頭陽子・古間木達也・星徳夫・星野晶・堀三智子・堀川博誠・前田和治・前田翠・前田良子・牧野立子・前田亨・増尾孝・松浦佐知子・松尾信・松坂孝太郎・松宮光興・松本美千代(株)・松屋・松山洋子・丸田敬根・三浦敦・三上哲志・三木雅博・水野信彦・三角宏・溝口美輪・三石政俊・三越伊勢丹グループ労働組合・南志津子・宮内和雄・宮崎安代・宮崎美子・宮田達郎・宮田典正・宮原さゆり・宮原節子・茗ヶ原久也・迎満寿子・村上喜久栄・村上洋子・村山知之・村山昌子(株)・メディアアネット・目羅敬一・望月政雄・茂又述史・森俊彦・森川友生男・森下京子・森田万紀子・森谷栄介・諸岡直美(株)・モンベル(株)・ヤギ・八代英二・安野眞二・矢田梨香・矢次智浩・谷中美穂・柳川巖・ヤフー(株)・矢部セツ・山口松代・山崎恭男・山田弘・山ノ下眞子・山本一郎・山本勝久・山本昇・山本美保・由比進・湯川百合子(株)・ユニファクター・横田和夫・横田等・横松榮一・吉居博文・吉田啓子・吉田勝・吉武國雄・よしだコマース(株)・米村邦稔(株)・読売エージェンシー・(株)りふはあと・六重部篤志(株)・ペライオ・企業組合わーかーず・あい・和歌和男・和田茂幸・和田多規江・和田信宏・渡辺章・渡辺和子・渡辺しのぶ・渡辺武夫・渡辺千春・渡部直衛・渡辺良明(50音順・敬称略/掲載を希望されなかつた方は除かせていただいています)

2012年度の事業計画

今年の重点テーマは“海”です!

3月14日に開催された理事会で2012年度の事業計画と予算が決まりました。

NACS-Jでは、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)と国連生物多様性の10年を踏まえ、2010年から「生物多様性の道プロジェクト」を進めています。

今年度は、特に日本で保全が立ち遅れている海の生物多様性保全を重点テーマに、事業に取り組みます。例えば、今年は生物多様性国家戦略の改訂が行われることから、そこに海の生物多様性保全をしっかり位置づけるため、5月に「海の生物多様性フォーラム」を開催し、「日本の海洋保護区のあり方」についての提言を発表しました。また、東日本大震災後の海岸の保全や地域の人の海辺への思いを明らかにする「東日本海岸調査」や、「自然しらべ2012 貝がらさがし!」も行います。ジュゴンがすむ海、辺野古・大浦湾や泡瀬干潟など生物多様性が危機に直面している沖縄の海の保全にも引き続き取り組みます。

また、地域での生物多様性保全と地域づくりが一体的に進むよう、生物多様性地域戦略づくりの普及や、赤谷・綾・漆・中池見・北総地域など現場での保全活動を一層進めます。

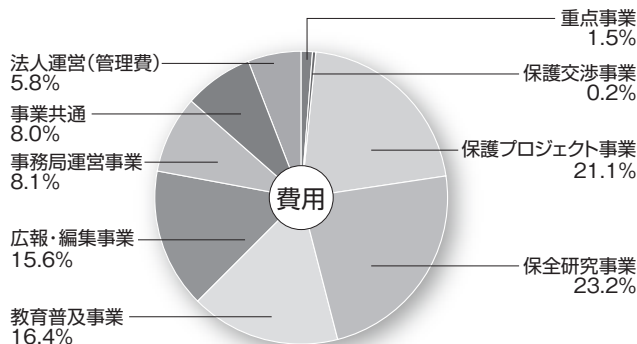
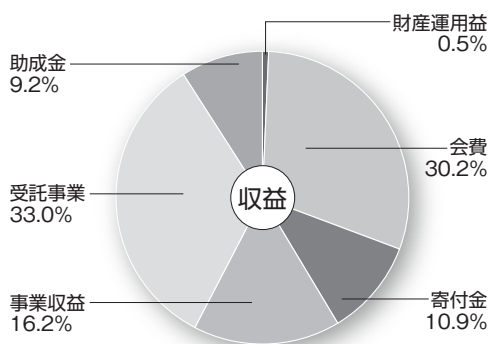
これら活動に基づく生物多様性・自然保護の輪を社会に広め、浸透させるため、NACS-Jウェブサイトや生物多様性の情報サイト「BD10.jp」を充実させ、ツイッターやフェイスブック、ウェブマガジンなどの新しいメディアも活用しながら、さまざまな分野の人たち、若い世代に向けた働きかけにも力を注ぎます。

2012年度の主な事業

重点事業・生物多様性の道プロジェクト	国家戦略改定への働きかけ、市民主体の生物多様性保全の地域づくり
保護交渉事業	保護交渉事業(国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み、保護地域の新設・拡大や管理方針の進展、国有林への多様性保全型施策の組み込み)
保護プロジェクト事業	沖縄・辺野古:ジュゴンが食べる海藻を調べる「ジャングサウオッチ」実施/赤谷プロジェクト:昨年伐採した人工林が自然に戻っていく様子を、コウモリやヤマメを新たに調査項目に加えて会員とモニタリング。治山ダム撤去も2つ目に着手/小笠原南島:世界遺産前後の観光客の変化による自然への影響を調査
保全研究事業	モニタリングサイト1000里地調査、東日本海岸調査を通じた市民参加のモニタリング調査を実施/綾の照葉樹林プロジェクトを進めユネスコエコパークを通じた地域づくりに着手/各調査の結果を各地域の保全施策に反映する
教育普及事業	自然観察指導員の養成とフォローアップ(講習会・研修会)/子どもと自然観察(自然しらべ「貝がらさがし」、自然観察路コンクール)/企業との自然観察会企画
広報編集事業	情報発信事業(会報、ウェブサイト、ほか新メディアの発行・記事作成)
事務局運営事業	収入基盤の整備(会費や寄付金拡大のための各種取り組み)/沼田眞貴の運営(牧田基金事業)など

2012年度予算

*金額については、32ページを参照。



■ 新しい理事・監事が決まりました。

●代表理事・理事長: 亀山 章(東京農工大学名誉教授) / 代表理事: 田畑貞寿(千葉大学名誉教授) / 理事: 足立高行(応用生態技術研究所所長)、大澤雅彦(雲南大学教授)、近藤康子(消費生活アドバイザー)、中井達郎(国士舘大学非常勤講師)、中村俊彦(千葉県立中央博物館副館長)、原 慶太郎(東京情報大学教授)、保屋野初子(東京大学大学院 客員共同研究員)、横山隆一((財)日本自然保護協会)、吉田正人(筑波大学大学院准教授) / (任期: 2012年6月8日~2014年6月)

●監事: 藤原正寛(流通経済大学教授)(任期: 2012年6月8日~2016年6月)、水野憲一(TVEジャパン理事)(任期: 2010年5月29日~2014年6月)

*新理事長のご挨拶は次号に掲載いたします。